

# 第 13 回気仙沼実技セミナー

## 開催報告

### ～開催目的～

要介護高齢者や、摂食・嚥下障害者の口から食べたいという願いを実現するために、支援者の口から食べる技術力の向上を目指し、摂食嚥下療法や、リハビリ、ケアマネジメント力を駆使しながら、誤嚥性肺炎のリスクがある方やさらなる医療依存度が高い方々においても口から食べたい願いを実現できるように取り組みます。「食べて幸せに生きてほしい」という強い情熱のある方々と一緒に、安全で優れた食事介助技術とマネジメント力を融合し、口から食べて幸せに生きるための技術を学びます。

### ～開催概要～

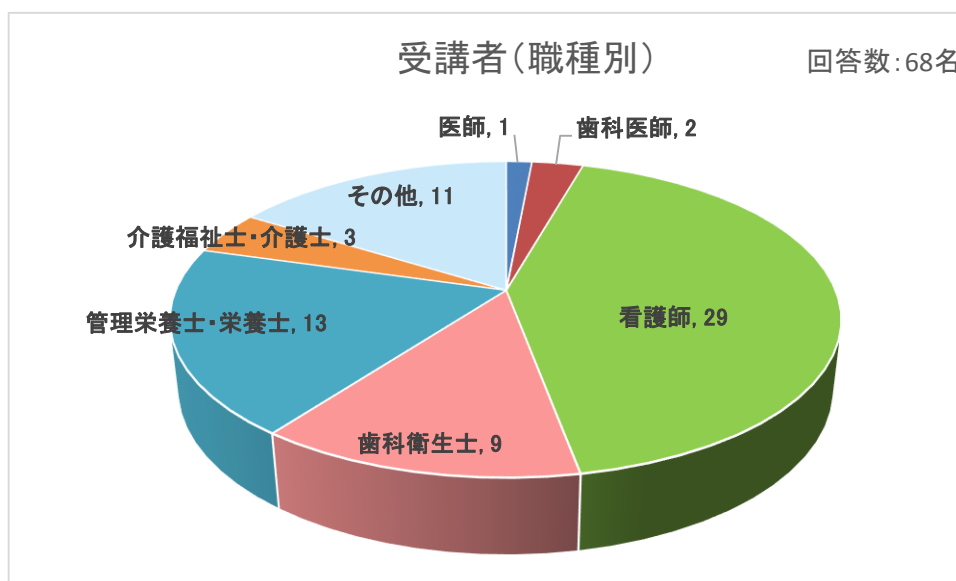
日時:2015年5月2日(土)

時間:9:30～15:30

場所:気仙沼市立病院

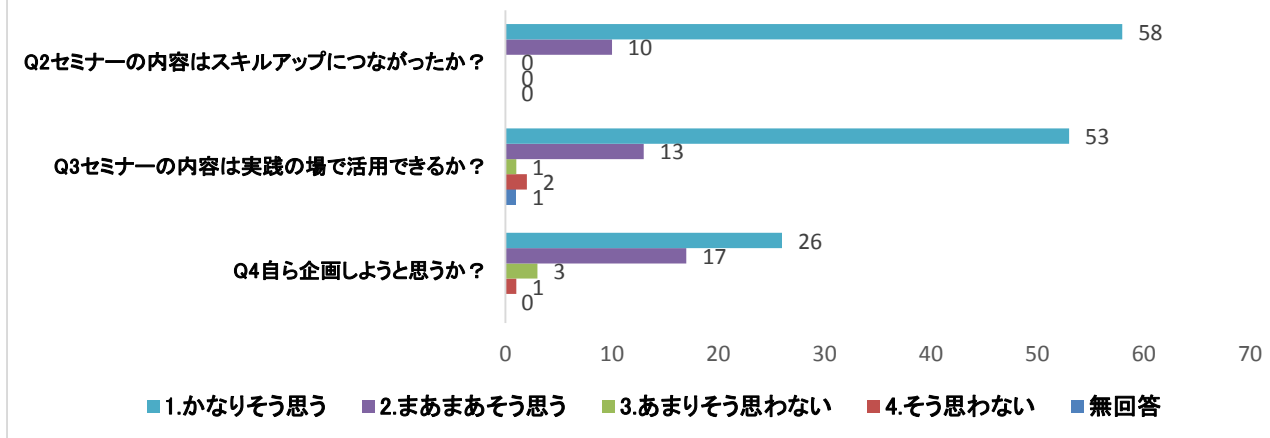
アドバイザー・スタッフ:25名

受講者:70名/午前(20名)、午後(50名)



## 受講者アンケート結果

回答数: 68名



### Q2 セミナーの内容はスキルアップにつながったか？

- \* 実際にやってみてどれが楽でつらいのかわかったので患者さんが楽のように介助していきたい。
- \* 今までの自分のやり方ではいけないことがわかりとても勉強になった。
- \* 口から食べる可能性が広がりそう。介助の仕方でこんなに違うと思わなかった。
- \* 観察の大切さ、補食に関してもポジショニングをするなど体験してみて大変さを感じた。
- \* 位置・角度・スプーンの動かし方など初めて分かったことが多かった。
- \* エビデンスが理解できていても、実践としてどのように行えばいいか曖昧だったので学びが多かった。

### Q3 セミナーの内容は実践の場で活用できるか？

- \* 訪問口腔ケア指導の場で使いたい。食事介助も家族へ指導できたらと思う。
- \* 病棟で開眼・開口しない患者さんがいるので今日の技術と知識を活用していきたい。
- \* 嚥下評価を行うのが医師という感じであったが、このセミナーを受け、確実にできることはスタッフ間で行い、うまく
- \* できない嚥下状態が悪い時に医師にしてもらうことでつながり出来ると思う。

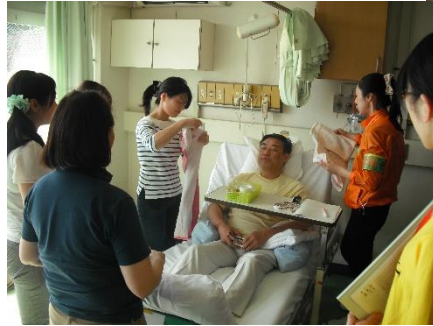
### Q4 自ら企画しようと思うか？

- \* 今年院内で今日のような実技を企画しているので講師を紹介してほしい。
- \* 今年度 NST 研修会で《口から食べる》ことに関することを予算化しています。実技セミナーが開催できればと思う。
- \* 摂食嚥下障害者の介助の仕方をみんなで共有していきたい
- \* 病棟で伝達講習していきたい。

### Q5 今後取り上げてもらいたい内容は？

- \* 体位が保てない人や認知のある人、飲み込みの悪い人など問題のある方の対応
- \* 認知機能低下や高次脳機能障害により食事の進みが悪い方への介助方法
- \* 食べる意欲がなくなってしまった方に口から食べることを楽しめるようにするためにどのようにアプローチしたらいいでしょうか？

～セミナー中の様子～



アドバイザー・スタッフ・受講者の皆様ありがとうございました。